

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
19	臨床医学概論 (病態解析部門)	No. 1 3 枚		

以下の記述について、正しいものは (○)、誤りは (×) を下の解答欄に記入しなさい。

- 問1 cyclooxygenase (COX)-2 inhibitor は、消化管傷害が少なく、NSAIDs に代わって広く用いられるようになった。
- 問2 disease-modifying antirheumatic drugs (DMARDs) による関節リウマチの治療では、呼吸器合併症が多いのが問題である。
- 問3 呼吸器疾患治療における home oxygen therapy (HOT) の適応症としては、慢性閉塞性肺疾患が現在是最も多い。
- 問4 睡眠時無呼吸症候群は、欧米では肥満者に多いが、アジア人では、やせた人にも発生する。
- 問5 *Helicobacter pylori* (Hp) 除菌後にも、腸上皮化生を認める場合は、胃癌の発生の可能性がある。
- 問6 proton pump inhibitor (PPI) を Hp 陽性者に除菌せずに投与すると、胃粘膜萎縮がおこることが懸念されている。
- 問7 妊娠、高 K 血症、両側性腎動脈狭窄は、angiotensin-converting enzyme inhibitor (ACEI) の使用禁忌である。
- 問8 気管支喘息、閉塞性肺疾患、2-3 度の A-V ブロックは、 β -blocker の使用禁忌である。
- 問9 降圧利尿剤は、心不全、高齢者に積極的な適応となる。
- 問10 大腸ガン予防に NSAIDs が有効であるとする報告が多数認められるが、その機序としては、プロスタグランジン合成抑制を介した血管新生抑制が考えられている。
- 問11 Hp 感染に強い関係があるとされるのは、胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌であり、リンパ腫、胃ポリープには関係しない。

採点	
----	--

[]

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
19	臨床医学概論 (病態解析部門)	No. 2 3 枚		

- 問 12 Hp 感染と特発性血小板減少性紫斑病との関連も指摘され、除菌が有効な例もある。
- 問 13 食道癌の組織型は、扁平上皮癌が多数を占めるが、米国では腺癌が最近半数以上になり、日本でも今後その増加が危惧されている。
- 問 14 大腸ポリープのうち、大腸癌に関連性が高いのは、腺腫性ポリープである。
- 問 15 過誤腫性ポリポーシスである Peutz-Jeghers 症候群でも、発癌が頻発する。
- 問 16 もやもや病は、若年者と高齢者の二峰性の発生を特徴とする脳血管障害である。
- 問 17 脳ドックは、MRI による脳梗塞の発見をめざしている。
- 問 18 脳ヘルニア防止は、脳出血の治療の際の目標になる。
- 問 19 錐体外路障害では、運動失調が発生する。
- 問 20 統合失調症とは、以前の躁鬱病のことである。
- 問 21 鎖骨下動脈盗血症候群では、下肢を動かすと意識障害がおこる。
- 問 22 筋萎縮性側索硬化症は、神経系の疾患であり、筋ジストロフィーは、筋肉の疾患である。
- 問 23 中高年男性の鉄欠乏性貧血は、消化管出血によるものが多い。
- 問 24 悪性貧血は、葉酸欠乏によりもたらされ、巨赤芽球性貧血の一つである。
- 問 25 多発性骨髄腫は、高齢者に多発する疾患である。
- 問 26 静注用鉄剤使用時には、ショックなどの副作用に注意する必要があり、鉄欠乏性貧血治療の第一選択薬ではない。

採
点

[]

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
19	臨床医学概論 (病態解析部門)	No. 3 3 枚		

問 27 再生不良性貧血のなかには肝障害に併発するものもある。

問 28 CREST 症候群は、PSS の中では予後が不良であり、食道にアカラシア様の拡張を認めることがある。

問 29 痛風発作の治療薬は、以前はコルヒチンだったが、現在は、COX-2 inhibitor を用いることが多い。

問 30 川崎病は、小児に好発し、冠状動脈の障害が問題となる。

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
問 21	問 22	問 23	問 24	問 25	問 26	問 27	問 28	問 29	問 30

採点	
----	--

[]